

グローバル人材育成推進室 (2012年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■グローバル関連科目	企業研究II (インターンシップ) 奥山 恭英	集中	3	2	1
	Chinese Culture and Society 板谷 俊生	2学期	2	2	2
	Global Studies Seminar 坂本 隆幸	2学期	3	2	3
	実践英語中級1・2(600～730) 足立 科子	1学期	2		4
	実践英語中級1・2(600～730) 足立 科子	2学期	2		5
	実践英語上級1(730～800) 松田 由美子	1学期	2		6
	実践英語上級1(730～800) 松田 由美子	2学期	2		7
	実践英語上級1(730～800) 岸川 ゆかり	1学期	2		8
	実践英語上級2(800～860) 岸川 ゆかり	1学期	2		9
	実践英語上級1(730～800) 岸川 ゆかり	2学期	2		10
	実践英語上級2(800～860) 岸川 ゆかり	2学期	2		11
	実践英語上級2(800～860) 太田 茉莉子	1学期	2		12
	実践英語上級2(800～860) 太田 茉莉子	2学期	2		13

グローバル人材育成推進室 (2012年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■グローバル関連科目	経営学I 奥山 恭英	1学期	2	2	14
	経営学II 山崎 勇治	2学期	2	2	15
	国際経営概論 / 国際経営 小川 雄平	2学期	2	2	16
	経営戦略概論 高橋 秀直	1学期	2	2	17
	Japanese Affairs フィオナ・クリーサー	1学期	2	2	18
	Japanese Culture and Society ロジャー・ウィリアムソン	2学期	2	2	19
	English Speaking Cultures and Societies ダニエル・ストラック	2学期	2	2	20
	国際政治経済概論 デビッド・アダム・ストット	1学期	2	2	21
	Asian International Relations / 東アジア国際政治 李 東俊	1学期	2	2	22
	Chinese Economy 白石 麻保	1学期	2	2	23
	グループ演習 (デイバート・討論) 伊藤 健一	1学期	2	2	24
	Global Business Seminar (中国) 王 効平	2学期	3	2	25
	Global Business Seminar 奥山 恭英	2学期	3	2	26
	企業研究 / 企業研究I 齋藤 貞之	2学期	2	2	27
	実践英語中級1・ 2(600～730) 木原 寛子	1学期	2		28

グローバル人材育成推進室 (2012年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■グローバル関連科目	実践英語中級1・ 2(600～730) 木原 寛子	2学期	2		29
	実践英語中級1・ 2(600～730) 足立 科子	1学期	2		30
	実践英語中級1・ 2(600～730) 足立 科子	2学期	2		31
	実践英語上級1(730～800) 松田 由美子	1学期	2		32
	実践英語上級1(730～800) 松田 由美子	2学期	2		33

企業研究II (インターンシップ) 【昼】

担当者名 奥山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○				

G E P又はG S P履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ずK G P履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

受講生が、企業インターンシップでチームワークや仕事のやり方をじかに体験することによって、将来の社会人としての生き方やキャリア形成を柔軟かつリアルに考えることができるようになることが期待されている。

教科書 /Textbooks

レジュメや資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回 自己分析
- 3回 ビジネスマナー研修
- 4回 業界研究・企業研究 1
- 5回 業界研究・企業研究 2
- 6回 出発直前研修
- 7回 インターンシップ研修
- 8回 インターンシップ研修
- 9回 インターンシップ研修
- 10回 インターンシップ研修
- 11回 インターンシップ研修
- 12回 インターンシップ体験報告書の作成
- 13回 インターンシップ報告会での発表
- 14回 インターンシップについての意見交換
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

体験報告書の提出 50%、発表と意見交換 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

当該授業に係わる資料などを事前に読破するとともに、その理解に努める。授業後は、当該授業内容の深い理解を図り、不明点は整理し次回に備える。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Chinese Culture and Society 【昼】

担当者名 板谷 俊生 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○	○

G E P又はG S P履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ずK G P履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

北九州市は過去においても現在においても、日中各分野の交流の玄関口のひとつであり、将来ますますその重要性は増すであろう。そのような中で、中国の文化・社会、特に現代中国の文化・社会を理解することは非常に重要になってくる。授業では、中国の文化と社会に関する基本的な知識を多面的に学習し、その文化の多様性と社会の特質を理解するように努める。

教科書 /Textbooks

プリント教材。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 中国現代史-文化と社会①1940年代
- 2 回 中国現代史-文化と社会②1950年代
- 3 回 中国現代史-文化と社会③1960年代
- 4 回 中国現代史-文化と社会④1970年代
- 5 回 中国の茶文化
- 6 回 仏教と共に伝来した食
- 7 回 日中食文化比較
- 8 回 京劇と歌舞伎の交流史
- 9 回 日中新劇交流史
- 10回 中国の教育
- 11回 中国の少数民族-伝統文化と現代文化
- 12回 中国の少数民族と現代社会
- 13回 中国の年中行事①
- 14回 中国の年中行事②
- 15回 干支について

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・・・50% 学期末レポート・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲を予習し、授業内容の復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国文化や社会に興味関心があれば、中国語を学習していなくても大丈夫です。

キーワード /Keywords

中国の文化・社会、中国年中行事、少数民族の文化と社会

Global Studies Seminar 【昼】

担当者名 坂本 隆幸 / Takayuki Sakamoto / 政策科学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○	○

GEP又はGSP履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ずKGP履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

このクラスでは先進諸国の経済・福祉政策とそれらが経済や人々の生活に与える影響を英語で学ぶ。毎週学生によるプレゼンテーションを基に、それぞれのトピックを検証し、理解を深める。

このクラスは、グローバル・エデュケーション・プログラム（GEP）にも同時開講されている。したがって、このクラスを履修するのは、政策科学科の学生とGEPを履修している他学部学生となる。

英語で行われる授業に躊躇する政策科学科の学生もいると思うが、英語の力をつけるいい機会と思って積極的に履修してもらいたい。このクラスは、政策科学科の学生とGEPの学生の両方にとって実りあるクラスだと思う。なぜなら両者ともに、互いから学び合い、互いに教え合えることが多いからである。GEPから参加する学生は英語はある程度できるかもしれないが、政策科学科の学生のように政策や政治についての知識を持っていない。この点においてGEP学生が、政策科学科の学生から学べることが多い。また、英語のスキルの点からは、政策科学科の学生がGEPの学生から学べることが多い。違う専攻、違うバックグラウンドを持つ政策科学科の学生とGEPの学生が同じクラスのなかで、互いの刺激になり、互いに助け合い、互いに足りないところを補いながら、共生的にそれぞれの能力を伸ばす、という建設的、生産的フォーラムと考えて履修してもらいたい。

ただし学期末に行われるテストあるいはレポートは、政策科学科の学生のものについては、すべて日本語で行われる（GEP学生のテストあるいはレポートは英語で行われる）。

教科書 /Textbooks

Jonas Pontusson. 2005. Inequality and Prosperity: Social Europe vs. Liberal America. Ithaca: Cornell University Press.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

後日指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

毎週当該のトピックについて、学生によるテキストの講読をもとにした質疑応答・検証を行い、学生と教員が互いに理解を深める。学生は毎週、テキストの指定箇所を事前に読み終えて授業に臨む。積極的な授業への参加なしでは単位を取得できない。「参加」とは「出席」とは同義語ではない。参加とは、毎週の課題・活動に積極的・建設的に参加・貢献することである。また、問題について建設的、批判的に考え、発言することである。

このクラスではたくさん勉強してもらいますので、そのつもりで履修登録してください。

毎週のreading assignmentについては後日アナウンスする。

(私のクラスについては、http://www.geocities.jp/sakamoto_pol/basicideas.htmを参照)

1. イントロ
2. 問題定義: 経済成長と平等
3. 成長と平等II (extension)
4. 資本主義経済の諸類型
5. 雇用・失業の様態
6. 雇用・失業の様態II (extension)
7. 雇用保護・解雇規制と雇用
8. 積極的労働市場政策と雇用、教育政策、職業教育、格差
9. 積極的労働市場政策と雇用、教育政策、職業教育、格差II (extension)
10. 福祉政策、所得再分配、経済成長
11. 福祉政策、所得再分配、経済成長II (extension)
12. 福祉国家の縮小とデータ
13. 福祉国家の縮小とデータII (extension)
14. 小括
15. まとめ

Global Studies Seminar 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

成績の評価は、100%のうち、(1)テキストの講読・理解、授業での発言・参加が40%、(2)研究論文あるいは期末総合テストが60%(どちらかひとつ)。研究論文とテストのどちらを行うかは、授業の進度や受講学生の学習の進歩を見て学期中に担当教員が決める。(1)の授業での発言・参加と(2)の論文/テストのどちらが欠けても単位は取得できない。(1)はどれだけよくテキストを指定の授業日までに読み、積極的にクラスでの検証に参加しているかによって決まる。(2)は、研究論文の場合、学期末提出の論文の質で決める。テストの場合は、学期中に学習・分析した内容をどれだけ良く理解したかを総合的に問うテストの結果をもって評価する。

論文の場合、A4紙にダブルスペースで13枚程度。研究の内容は、テキストや講義で学んだ内容を発展させる、あるいは検証するものにする。ゆえにテキストを読まずに研究を進めることはできない。研究論文であるので、時事批評や感想文、哲学論は受け付けない。研究を進め、論文を書く際、次のことに注意を払うこと：(1)オリジナルな研究、論文にする、(2)理論や説明の論理的整合性、(3)理論や議論とデータとの合致(自分の理論や説明をデータによって裏付けて説得力のあるものにする。あるいはデータの適切な分析に基づく結論を導く)。いずれにせよ、thoughtfulな分析にすること。言うまでもなく、既存の図書、雑誌などからの不正あるいは不適切な引用・抜粋は禁止。また、他の者が書いたものと同一のレポートの提出や、過去において自己・他者が書いたレポートの提出も禁止。これら不適切あるいは不正な行為発生の場合は不可。

総合テストの場合は、テキストや授業で学んだ内容をどれだけ良く理解しているかを、総合的に問い、論文形式で答えてもらう。

なお事後学習についてであるが、学期末の試験・レポートでは授業の内容を理解しているかどうか問われるので、必要に応じて行うこと。また、時間的にあとに行う授業はそれ以前の授業の知識の上に行うので、授業の内容を理解するよう努めてください。ただし、事前学習と事後学習との間で時間的衝突に直面する際は、事前学習を優先してください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

上記を参照せよ

履修上の注意 /Remarks

毎週の授業前までには、教科書の指定箇所を必ず読み終えていること。この講読で得た知識をベースに授業を進める。また、条件ではないが、この手の分野に関心があるなら、マクロ経済学や統計を勉強することを強く勧める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なにごとも、必死になって頑張れば、なんとかなりますので、必死になって頑張ってください。

キーワード /Keywords

比較政策分析、比較政治経済、福祉政策、経済政策、教育政策、労働政策、国際政治経済、比較政治、雇用、経済成長、平等、福祉、市民、政府、政治家、利益集団

実践英語中級1・2(600～730)【昼】

担当者名 足立 科子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○	○

G E P 又は G S P 履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ず K G P 履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

新形式TOEICのスコアアップを図るとともに、実践で使える英語力を養うことをクラスの目的とします。授業は座学ではなく、学生の参加（発言）を中心とした形式です。グループワークやペアワークも多く取り入れます。TOEICについては、新形式に慣れること英語に対する反応を速くかつ正確に内容理解することに焦点を置きます。スピーキングについては、描写力、説明力をつけることから始めて、自分の意見を述べたり、受講生間で英語を使ったコミュニケーションが取れるようなレベルを目指します。テキストとして使用する問題集は通年で使用します。

教科書 /Textbooks

公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 1
出版社: 国際ビジネスコミュニケーション協会
ISBN-13: 978-4906033492

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、速読、ディクテーション、スピーキング
- 2回 リスニング(以下L): TOEIC新形式問題、短文(ニュースなど)聞き取り、スピーキング(以下S): 描写
- 3回 L:短文聞き取り、リーディング(以下R): TOEIC新形式問題、S: 描写②
- 4回 L:TOEIC新形式問題、短文聞き取り、R:結末を考える読み物①、S: 描写(まとめ)
- 5回 L:短文聞き取り、R:TOEIC新形式問題、S: 説明①
- 6回 L&R: TOEIC新形式問題、R:結末を考える読み物②、S: 説明②
- 7回 L: 長文リスニング、R:TOEIC新形式問題、S: 説明(まとめ)
- 8回 L&R: TOEIC新形式問題、R:結末を考える読み物③、S: 意見を述べる①
- 9回 L&R: TOEIC新形式問題、S: 意見を述べる②
- 10回 L&R: TOEIC新形式問題、S: 意見を述べる(まとめ)
- 11回 実践演習: 受講生の関心事、時事的な事柄などをトピックとした総合的な演習。娯楽的要素も取り入れる。
- 12回 実践演習
- 13回 実践演習
- 14回 フォローアップ: 授業の進捗により内容を調整する
- 15回 フォローアップ

成績評価の方法 /Assessment Method

なし

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

クラス内で連絡します。宿題は基本的に任意形式(講師による添削)とします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

実践英語中級1・2(600～730)【昼】

担当者名 足立 科子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○	○

G E P 又は G S P 履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ず K G P 履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

新形式TOEICのスコアアップを図るとともに、実践で使える英語力を養うことをクラスの目的とします。授業は座学ではなく、学生の参加（発言）を中心とした形式です。グループワークやペアワークも多く取り入れます。TOEICについては、新形式に慣れること英語に対する反応を速くかつ正確に内容理解することに焦点を置きます。スピーキングについては、描写力、説明力をつけることから始めて、自分の意見を述べたり、受講生間で英語を使ったコミュニケーションが取れるようなレベルを目指します。テキストとして使用する問題集は通年で使用します。

教科書 /Textbooks

公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 1
出版社: 国際ビジネスコミュニケーション協会
ISBN-13: 978-4906033492

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、速読、ディクテーション、スピーキング
- 2回 リスニング(以下L): TOEIC新形式問題、短文(ニュースなど)聞き取り、スピーキング(以下S): 描写
- 3回 L:短文聞き取り、リーディング(以下R): TOEIC新形式問題、S: 描写②
- 4回 L:TOEIC新形式問題、短文聞き取り、R:結末を考える読み物①、S: 描写(まとめ)
- 5回 L:短文聞き取り、R:TOEIC新形式問題、S: 説明①
- 6回 L&R: TOEIC新形式問題、R:結末を考える読み物②、S: 説明②
- 7回 L: 長文リスニング、R:TOEIC新形式問題、S: 説明(まとめ)
- 8回 L&R: TOEIC新形式問題、R:結末を考える読み物③、S: 意見を述べる①
- 9回 L&R: TOEIC新形式問題、S: 意見を述べる②
- 10回 L&R: TOEIC新形式問題、S: 意見を述べる(まとめ)
- 11回 実践演習: 受講生の関心事、時事的な事柄などをトピックとした総合的な演習。娯楽的要素も取り入れる。
- 12回 実践演習
- 13回 実践演習
- 14回 フォローアップ: 授業の進捗により内容を調整する
- 15回 フォローアップ

成績評価の方法 /Assessment Method

なし

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

クラス内で連絡します。宿題は基本的に任意形式(講師による添削)とします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

実践英語上級1(730～800)【昼】

担当者名 松田 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○	○

G E P 又は G S P 履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ず K G P 履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

- TOEIC対策：
スコアアップのための戦略および具体的な訓練法を身につける。特にリスニング対応として、リプロダクション、シャドウイング、訳出を中心に訓練を行う。
加えて、新TOEICにも対応する。
- スピーキング力向上：
社会事象をテーマに意見を持ち、大学生レベルの英語で伝えることができることを目指す。
TED Talksなども活用して、スピーチ、ディスカッション、ディベート、通訳などを実践する。
このパートは基本的に英語のみで進める。

教科書 /Textbooks

Tactics for TOEIC Listening and Reading Test (OXFORD)
新TOEIC 対応のプリント (必要に応じて配布)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- オリエンテーション (シラバス説明、目標の明確化) 自己紹介スピーチ
2回以降
 - ・ IELTS Part1スタイルのQ&Aセッション
 - ・ TOEICテキスト (リプロダクション、シャドウイング、訳出など導入)
 - ・ スピーキングセッション (事前与えられたテーマについて、スピーチ、ディスカッション、ディベート、通訳など)
自分のスピーキングを必要に応じて録音する。

成績評価の方法 /Assessment Method

評価付けはない。
学期終了前後にTOEICを受験すること。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前： テキスト予習。 スピーキングセッションの準備として、テーマについてのリサーチ。

履修上の注意 /Remarks

TOEICスコアアップに特化した授業ではない。
パフォーマンスを通じた実践力養成にも重点を置いていることを理解した上で履修することを望む。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スピーキング力向上を目指しますが、テーマについて自分の意見を持つことが第一。
社会事象について関心を持ち、考えてみましょう。

クラス内では失敗を恐れず、思いっきり、心ゆくまで発話してください！

英語通訳者として、仕事として英語を実践していく実情についても触れていきたいと思います。

キーワード /Keywords

実践英語上級1(730～800)【昼】

担当者名 松田 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○	○

G E P 又は G S P 履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ず K G P 履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

- TOEIC対策：
スコアアップのための戦略および具体的な訓練法を身につける。特にリスニング対応として、リプロダクション、シャドウイング、訳出を中心に訓練を行う。
加えて、新TOEICにも対応する。
- スピーキング力向上：
社会事象をテーマに意見を持ち、大学生レベルの英語で伝えることができることを目指す。
TED Talksなども活用して、スピーチ、ディスカッション、ディベート、通訳などを実践する。
このパートは基本的に英語のみで進める。

教科書 /Textbooks

Tactics for TOEIC Listening and Reading Test (OXFORD)
新TOEIC 対応のプリント (必要に応じて配布)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- オリエンテーション (シラバス説明、目標の明確化) 自己紹介スピーチ
2回以降
 - ・ IELTS Part1スタイルのQ&Aセッション
 - ・ TOEICテキスト (リプロダクション、シャドウイング、訳出など導入)
 - ・ スピーキングセッション (事前与えられたテーマについて、スピーチ、ディスカッション、ディベート、通訳など)
自分のスピーキングを必要に応じて録音する。

成績評価の方法 /Assessment Method

評価付けはない。
学期終了前後にTOEICを受験すること。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前： テキスト予習。 スピーキングセッションの準備として、テーマについてのリサーチ。

履修上の注意 /Remarks

TOEICスコアアップに特化した授業ではない。
パフォーマンスを通じた実践力養成にも重点を置いていることを理解した上で履修することを望む。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スピーキング力向上を目指しますが、テーマについて自分の意見を持つことが第一。
社会事象について関心を持ち、考えてみましょう。

クラス内では失敗を恐れず、思いっきり、心ゆくまで発話してください！

英語通訳者として、仕事として英語を実践していく実情についても触れていきたいと思います。

キーワード /Keywords

実践英語上級1(730～800) 【昼】

担当者名 /Instructor 岸川 ゆかり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○	○

G E P 又は G S P 履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ず K G P 履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

CBS報道番組を通して世界で今何が起きているかを理解し、様々な事柄について常に問題意識を持ち、自らの考えを論理的に纏めて発表する力を培う。国際社会でのマナーの習得。

教科書 /Textbooks

CBS NewsBreak 3 成美堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

インターネット上の英語のニュース、英字新聞

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

01回	Introduction	Unit 1	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	
02回	小テスト	Unit 1	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	ディスカッション
03回	小テスト	Unit 2	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	
04回	小テスト	Unit 2	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	ディスカッション
05回	小テスト	Unit 3	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	
06回	小テスト	Unit 3	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	ディスカッション
07回	小テスト	Unit 4	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	
08回	小テスト	Unit 4	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	ディスカッション
09回	小テスト	Unit 5	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	
10回	小テスト	Unit 5	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	ディスカッション
11回	小テスト	Unit 6	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	
12回	小テスト	Unit 6	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	ディスカッション
13回	小テスト	Unit 7	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	
14回	小テスト	Unit 7	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	ディスカッション
15回	小テスト	Unit 8	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	プレゼンテーション

成績評価の方法 /Assessment Method

評価付けはありません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習復習をきちんと行うこと。

履修上の注意 /Remarks

欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講する学生には予習復習をしっかりと行うことを求めます。授業にはテキスト、辞書、語彙ノート(各自が受講中に作成していくノート)とルーズリーフ式ノート(課題提出用)を必携すること。課題は提出期限厳守のこと。授業では常に個々の意見を問いますので、日頃から様々な事柄に対し問題意識を持って自分の考えを纏める習慣をつけましょう。

キーワード /Keywords

実践英語上級2(800～860) 【昼】

担当者名 /Instructor 岸川 ゆかり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○	○

GEP又はGSP履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ずKGP履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

世界を舞台に英語を使って働く様々な業種を知り、将来の進路決定に役立てる。受信能力及び発信能力を含めた英語の総合能力を伸ばす。国際ビジネスに必要な一般常識や背景知識を培う。

教科書 /Textbooks

English Career Paths to Success 成美堂

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

英字新聞経済面

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

01回	Introduction	Unit 1	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	
02回	小テスト	Unit 1	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	
03回	小テスト	Unit 2	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	
04回	小テスト	Unit 2	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	プレゼンテーション
05回	小テスト	Unit 3	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	
06回	小テスト	Unit 3	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	
07回	小テスト	Unit 4	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	
08回	小テスト	Unit 4	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	
09回	小テスト	Unit 5	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	プレゼンテーション
10回	小テスト	Unit 5	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	
11回	小テスト	Unit 6	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	
12回	小テスト	Unit 6	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	
13回	小テスト	Unit 7	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	
14回	小テスト	Unit 7	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	プレゼンテーション
15回	小テスト	Unit 8	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	

成績評価の方法 /Assessment Method

評価付けはありません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習復習をきちんと行うこと。

履修上の注意 /Remarks

欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講する学生には予習復習をしっかりと行うことを求めます。授業にはテキスト、辞書、語彙ノート(各自が受講中に作成していくノート)、ルーズリーフ式ノート(課題提出用)を必携すること。課題は提出期限を厳守すること。様々な英文に慣れるために日頃からインターネットのニュースや英字新聞に目を通す習慣をつけましょう。

キーワード /Keywords

実践英語上級1(730～800) 【昼】

担当者名 /Instructor 岸川 ゆかり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○	○

G E P 又は G S P 履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ず K G P 履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

CBS報道番組を通して世界で今何が起きているかを理解し、様々な事柄について常に問題意識を持ち、自らの考えを論理的に纏めて発表する力を培う。国際社会でのマナーの習得。

教科書 /Textbooks

CBS NewsBreak 3 成美堂

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

インターネット上の英語のニュース、英字新聞

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

01回	Introduction	Unit 8	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	
02回	小テスト	Unit 8	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	ディスカッション
03回	小テスト	Unit 9	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	
04回	小テスト	Unit 9	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	
06回	小テスト	Unit 10	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	ディスカッション
07回	小テスト	Unit 10	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	
08回	小テスト	Unit 11	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	ディスカッション
09回	小テスト	Unit 11	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	
10回	小テスト	Unit 12	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	ディスカッション
11回	小テスト	Unit 12	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	
12回	小テスト	Unit 13	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	ディスカッション
13回	小テスト	Unit 13	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	
14回	小テスト	Unit 14	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	ディスカッション
15回	小テスト	Unit 14	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	プレゼンテーション

成績評価の方法 /Assessment Method

評価付けはありません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習復習をきちんと行うこと。

履修上の注意 /Remarks

欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講する学生には予習復習をしっかり行うことを求めます。授業にはテキスト、辞書、語彙ノート(各自が受講中に作成していくノート)とルーズリーフ式ノート(課題提出用)を必携すること。課題は提出期限厳守のこと。授業では常に個々の意見を問いますので、日頃から様々な事柄に対し問題意識を持って自分の考えを纏める習慣をつけましょう。テキストは1学期からの通年で使用しますが、2学期からの受講も全く問題ありません。

キーワード /Keywords

実践英語上級2(800～860) 【昼】

担当者名 /Instructor 岸川 ゆかり / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○	○

GEP又はGSP履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ずKGP履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

世界を舞台に英語を使って働く様々な業種を知り、将来の進路決定に役立てる。受信能力及び発信能力を含めた英語の総合能力を伸ばす。国際ビジネスに必要な一般常識や背景知識を培う。

教科書 /Textbooks

English Career Paths to Success 成美堂

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

英字新聞経済面

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

01回	Introduction	Unit 8	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	
02回	小テスト	Unit 8	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	
03回	小テスト	Unit 9	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	
04回	小テスト	Unit 9	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	プレゼンテーション
05回	小テスト	Unit 12	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	
06回	小テスト	Unit 12	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	
07回	小テスト	Unit 15	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	
08回	小テスト	Unit 15	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	プレゼンテーション
09回	小テスト	Unit 16	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	
10回	小テスト	Unit 16	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	
11回	小テスト	Unit 18	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	
12回	小テスト	Unit 18	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	プレゼンテーション
13回	小テスト	Unit 20	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	
14回	小テスト	Unit 20	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	
15回	小テスト	Unit 14	語彙強化	速読	TOEIC Part 7	

成績評価の方法 /Assessment Method

評価付けはありません。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習復習をきちんと行うこと。

履修上の注意 /Remarks

欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講する学生には予習復習をしっかりと行うことを求めます。授業にはテキスト、辞書、語彙ノート(各自が受講中に作成していくノート)、ルーズリーフ式ノート(課題提出用)を必携すること。課題は提出期限を厳守すること。様々な英文に慣れるために日頃からインターネットのニュースや英字新聞に目を通す習慣をつけましょう。テキストは1学期からの通年で使用しますが、2学期からの受講も全く問題ありません。

キーワード /Keywords

実践英語上級2(800～860) 【昼】

担当者名 /Instructor 太田 茉莉子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○	○

G E P 又は G S P 履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ず K G P 履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

グローバルな現場で、タフに対応できる実践的英語の基礎体力を鍛えることを目標とする。
通訳トレーニングメソッドを取り入れた訓練法で、Stockpile (Input) と Production (Output) を効果的に強化する。
このようにして英語総合力を鍛えることにより、実質的正解によるTOEICハイスコア連取へと繋げる。

- 授業では、
1. 語彙漸増：Quick Response (QR)
 2. Stockpile (Input) 強化：ReadingとListening上達のための各種トレーニング
 3. Production (Output) 強化：DiscussionとPresentation上達のための各種トレーニング
 4. Consecutive Interpretation Demonstration (E⇒J) (J⇒E)
 5. TOEIC対策問題

これらを組み合わせながら進めていく。

教科書 /Textbooks

適宜教材を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction
- 第2回 QR Input:Listening TOEIC Part 3
- 第3回 QR Input:Listening TOEIC Part 3
- 第4回 QR Input:Listening TOEIC Part 4
- 第5回 QR Input:Listening TOEIC Part 4
- 第6回 QR Input:Reading TOEIC Part 5,6
- 第7回 QR Input:Reading TOEIC Part 5,6
- 第8回 QR Input:Reading TOEIC Part 5,6
- 第9回 QR Input:Reading TOEIC Part 5,6
- 第10回 QR Consecutive Interpretation Demonstration (E⇒J)
- 第11回 QR Consecutive Interpretation Demonstration (J⇒E)
- 第12回 QR Output:Two-Way Discussion TOEIC Part 7
- 第13回 QR Output:Group Discussion TOEIC Part 7
- 第14回 QR Output:Presentation TOEIC Part 7
- 第15回 QR Output:Presentation, fol. by Q&A Session

成績評価の方法 /Assessment Method

なし

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

課題を丁寧にやること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

実践英語上級2(800～860) 【昼】

担当者名 /Instructor 太田 茉莉子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○	○

G E P 又は G S P 履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ず K G P 履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

グローバルな現場で、タフに対応できる実践的英語の基礎体力を鍛えることを目標とする。
通訳トレーニングメソッドを取り入れた訓練法で、Stockpile (Input) と Production (Output) を効果的に強化する。
このようにして英語総合力を鍛えることにより、実質的正解によるTOEICハイスコア連取へと繋げる。

- 授業では、
1. 語彙漸増：Quick Response (QR)
 2. Stockpile (Input) 強化：ReadingとListening上達のための各種トレーニング
 3. Production (Output) 強化：DiscussionとPresentation上達のための各種トレーニング
 4. Consecutive Interpretation Demonstration (E⇒J) (J⇒E)
 5. TOEIC対策問題

これらを組み合わせながら進めていく。

教科書 /Textbooks

適宜教材を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction
- 第2回 QR Input:Listening TOEIC Part 3
- 第3回 QR Input:Listening TOEIC Part 3
- 第4回 QR Input:Listening TOEIC Part 4
- 第5回 QR Input:Listening TOEIC Part 4
- 第6回 QR Input:Reading TOEIC Part 5,6
- 第7回 QR Input:Reading TOEIC Part 5,6
- 第8回 QR Input:Reading TOEIC Part 5,6
- 第9回 QR Input:Reading TOEIC Part 5,6
- 第10回 QR Consecutive Interpretation Demonstration (E⇒J)
- 第11回 QR Consecutive Interpretation Demonstration (J⇒E)
- 第12回 QR Output:Two-Way Discussion TOEIC Part 7
- 第13回 QR Output:Group Discussion TOEIC Part 7
- 第14回 QR Output:Presentation TOEIC Part 7
- 第15回 QR Output:Presentation, fol. by Q&A Session

成績評価の方法 /Assessment Method

なし

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

課題を丁寧に行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営学I【夜】

担当者名 /Instructor 奥山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○	○

G E P又はG S P履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ずK G P履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、現代企業経営を取り巻く経済環境を理解するために経済学の初歩的な内容と視点を理解することにある。経済学と経営学は理系における理学と工学の関係に似ており、経済学の基礎的内容の理解は現代の複雑さを極め変化のスピードの早い社会経済環境の中での経営を考える礎となる。本授業では経済学的な社会の見方や経済情勢を把握し今後の成り行きを考えるための枠組みを紹介し、それらは現実社会における社会経済的な変化を理解するための扉を開くことに役立つ。

教科書 /Textbooks

Partha Dasgupta (2007) Economics: A Very Short Introduction New York, NY: Oxford University Press.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- Arthur O'Sullivan and Steven M. Sheffrin, (1998) Economics: principles and tools. 2nd ed. Upper Saddle River, NJ : Prentice Hall.
- N. Gregory Mankiw, (2001) Principles of economics. 2nd ed. Fort Worth, TX : Harcourt College Publishers.
- Joseph E. Stiglitz and Carl E. Walsh, (2002) Economics. 3rd ed. New York, NY: W.W. Norton.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1st Week: Introduction
 2nd Week: Macroeconomic History
 3rd Week: Trust
 4th Week: Communities
 5th Week: Quiz #1
 6th Week: Consumers
 7th Week: Producers
 8th Week: Markets
 9th Week: Market and Policy Failures
 10th Week: Quiz #2
 11th Week: Science and Technology as Institutions
 12th Week: Households and Firms
 13th Week: Sustainable Economic Development
 14th Week: Social Well-being and Democratic Government
 15th Week: Where can we go from here? — Quiz #3

成績評価の方法 /Assessment Method

Contribution to class discussion30%
 Quizzes70%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本授業は週一回の割合で講義・討論(ディスカッション)の形態で行われる。毎週の各授業に割り当てられたテキストブックの内容を必ず授業前に読破し、自らが考える重要な点と質問点を整理しておく。授業後は、授業内容や討論内容を整理し理解を深めることが前提となる。

履修上の注意 /Remarks

本授業は概ね日本語で行われる予定であるが、専門用語等はテキストブックにある英語のままのものを使う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経営学なのに経済学?と思われるかもしれませんが、企業経営や企業活動は経済活動の一部です。企業内で何がどのように行われているかも企業で働く上で大切なことですが、大きな視点で経済活動が理解できないと時流を正しく判断できなく、企業活動そのものがうまくいかなくなります。社会科学的な視点を学ぶという点でも、経済学の基礎を理解することは大切なことだと思います。

キーワード /Keywords

経営学II 【夜】

担当者名 山崎 勇治 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○	○

GEP又はGSP履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ずKGP履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

GEPの学生が一番関心を持っていることはなにか。それは卒業後の進路問題であろう。社会人となって働くということは避けておれない。それにもかかわらず会社のことをよくわからないままに社会人になった人は多いのではなかろうか。会社とはなにか。日本的経営とは何か、男女の格差問題とはなにか。辞めなくなったとき考えるべきこととは何かなど、現実的な問題に迫ってほしいと思います。そこから見えてくるもの。これらを毎日の新聞の記事と関連させながら考えていこうではありませんか！

教科書 /Textbooks

池上 彰『会社のこと、よくわからないまま社会人なった人へ』（海竜社、1500円＋税）

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

宇田川勝＋中村青志『マテリアル日本経営史 - 江戸期から現在まで』（有斐閣、2012年）
『図解丸わかり時事用語』（ニュース・リテラシー研究所）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介と講義の方針
- 2回 会社で一番偉いのはだれだれか？
- 3回 取締役会とはどんなものか？
- 4回 アメリカと日本、経営トップにどのような違いがあるか？
- 5回 日本的な経営とはどのような経営なのか？
- 6回 成果主義は成果を上げたのか？
- 7回 優れた経営者とは、どんな人か？
- 8回 就職とはどういうことか？
- 9回 男女の雇用格差は本当になくなったのか？
- 10回 雇用形態はいろいろある？
- 11回 今後間違いなく発展する会社を見極める方法はあるのか？
- 12回 辞めなくなったとき考えるべきことは？
- 13回 「会社で働く」ということはどういう事か？
- 14回 外部から講師
- 15回 ディスカッションー経営学IIから学んだこと

成績評価の方法 /Assessment Method

定期テスト:80%, レポート:20% (講義終了時に授業中のキーワードを書いてもらう)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

時事問題に興味を持ってもらいたい。そのためには新聞を毎日読んで、興味を持った記事をノートに記載してそれを提出してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

法人、取締役会、日本的経営、終身雇用、就職、年功序列賃金、成果主義

国際経営概論 / 国際経営 【夜】

担当者名 /Instructor 小川 雄平 / Yuhei OGAWA / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○	○

GEP又はGSP履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ずKGP履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

今日の企業経営の要は、著しくグローバル化が進んだ世界経済に上手く適応できるかどうかである、といっても過言ではない。とりわけ「少子高齢化」の進展著しい日本では、労働力人口と生活人口の減少に対応した企業が、家電やアパレルといった製造業からスーパーやコンビニのような小売業に至るまで、競って、中間所得層の増大するアジアへの進出を急いでいる。このような状況を踏まえて、本講義では、専ら日本企業に焦点を当て、その海外進出の進展とそれともなう企業内貿易の展開や国際部品調達網の構築などの実態について解説し、為替レートの変動や急増するFTA(自由貿易協定)・メガFTAに対処した企業経営のあり方を検討する。

授業は、受講生が経済・経営関連科目の未履修者であることを前提に、新聞報道から具体的な事例を取り上げて分かり易く説明する形で進める。必要な経済用語の解説と貿易・投資に関する理論・実務の紹介にも努めたい。

教科書 /Textbooks

テキストは使用せず、テキストに代わるプリントを準備する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

小川雄平著『東アジア地中海経済圏』九州大学出版会、2006年、1600円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：法人企業と会社、株式会社、日本的経営、企業の海外進出と「空洞化」
- 2回 企業経営の国際化I：対米貿易摩擦・円高と輸出企業による生産基地の移転、アジアNIEs
- 3回 企業経営の国際化II：製造業企業による国際部品供給網の構築と国際分業の深化
- 4回 企業経営の国際化III：対米貿易摩擦・生産コスト上昇と生産基地の再移転、「世界の工場」中国
- 5回 企業経営の国際化IV：中間所得層の増大=消費市場としてのアジア、企業の現地化とM&A
- 6回 企業経営の国際化V：国際物流の進展とサプライチェーンマネジメント、為替レートと物流コスト
- 7回 小括：賃金・為替レートと企業経営
- 8回 貿易取引・決済の実際と外国為替の原理
- 9回 企業内貿易の実態I：企業の多国籍化と企業内取引の実際
- 10回 企業内貿易の実態II：タックス・ヘイブン（租税回避地）と移転価格税制
- 11回 小括：税と企業経営
- 12回 FTAと企業戦略I：FTA（自由貿易協定）とEPA（経済連携協定）、日本の関税
- 13回 FTAと企業戦略II：メガFTA（TPP・日中韓FTA・RCEP）と企業戦略
- 14回 FTAと企業戦略III：自動車産業とFTA大国メキシコ
- 15回 小括：多国籍企業のFTA戦略

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み50%、課題小論文50%で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示した内容の予習と授業の復習を行い、疑問点や不明な箇所があれば、そのままにせずに直ぐにメールで質問するか、直近の授業で質問すること（担当者のメールアドレス：y-ogawa@heart-com.co.jp または ogawa@seinan-gu.ac.jp）。

履修上の注意 /Remarks

新聞の経済面に目を通して授業に参加することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

難易度の高い授業だと思われるようだが、初心者でも十分に理解できる内容だから、安心して受講して欲しい。

キーワード /Keywords

法人企業、日本的経営、空洞化、多国籍企業、タックス・ヘイブン、円高・円安、FTA（自由貿易協定）、TPP、外国為替

経営戦略概論 【夜】

担当者名 高橋 秀直 / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○	○

G E P 又は G S P 履修対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ず K G P 履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

経営戦略の理論と技法、その応用分析を中心的な内容とした講義を行う。理論とデータ加工によって、分析的に思考するスキルを高めながら戦略的思考力を高めることが本講義の目的である。本講義の到達目標は、経営戦略に関する基本的な理論や考え方を習得し、それらを用いて自分なりの視点から経営戦略を策定することができるようになることである。

教科書 /Textbooks

テキストは特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 戦略とは何か?
- 3回 製品戦略(1) 【マーケティング・ミックス】
- 4回 製品戦略(2) 【セグメンテーション】
- 5回 製品戦略(3) 【製品ライフサイクル】
- 6回 製品戦略(4) 【市場地位別の戦略】
- 7回 事業戦略(1) 【業界の構造分析(市場の競合度, 新規参入の脅威)】
- 8回 事業戦略(2) 【業界の構造分析(売り手・買い手の関係, 代替品の脅威)】
- 9回 事業戦略(3) 【企業の内部分析(価値連鎖, 活動マップ)】
- 10回 事業戦略(4) 【企業の内部分析(RBV, 学習)】
- 11回 事業戦略(5) 【ゲーム論的な考え方(価値相関図)】
- 12回 事業戦略(6) 【ゲーム論的な考え方】
- 13回 全社戦略(1) 【多角化とPPM】
- 14回 全社戦略(2) 【企業ドメイン】
- 15回 まとめ

なお、受講生の理解度・興味に応じて、内容等は適宜変更される。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト... 70% 小レポート(テスト)... 20% 授業への寄与度... 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

平素からマーケティングや経営戦略に関する時事などに興味を持ち、情報を集めておくこと。
講義の進行によっては、予習・復習のためのレポートを課すので、指示をよく聞くこと。
ケーススタディを行う際は、事前にリーディングの読み込みとレポートを提出してもらい、
事後的には授業内容を踏まえた再分析レポートを課すことになる。

履修上の注意 /Remarks

経営学I・IIを受講済みか、経営学に関する知識があることが望ましい。
受講生が少人数の場合、演習形式に変更される可能性がある。
その際には、英書のテキストの輪読(毎回1章のペースで進む。予習の分量は40ページ前後)となり、
受講生全員分のレジユメの提出が毎回求められる。
講義が演習かについて、および英書テキストについては、第1回で受講生の人数・興味に応じて決定する。
受講希望者は第1回に必ず参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Japanese Affairs 【夜】

担当者名 /Instructor
フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○	○

G E P 又は G S P 履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ず K G P 履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

This course provides an introduction to contemporary Japanese society. We will critically evaluate both popular and scholarly theories about Japan with special attention paid to key themes in Japanese society. Topics covered will include Japanese identity, Japan and Asia, Japan and the West, religion, ethnicity, gender, sexuality, education, and politics. Throughout the course we will investigate some recurrent ideas in Japanese society as well as the ways in which cultural differences are perceived, depicted, and theorized.

By the end of this course students will have a clear understanding of Japan and Japanese culture. Students will be able to think critically about Japan's relationship with the West and Asia and students will be given the opportunity to discuss issues related to Japanese society.

教科書 /Textbooks

The instructor will provide materials each week.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The instructor will provide materials each week.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction to the course. Being Japanese
- 2 回 Being Foreign in Japan
- 3 回 Urban Sprawl, Rural Idyll
- 4 回 Japan and the West
- 5 回 Japan and Asia
- 6 回 Yakuza
- 7 回 Yakuza
- 8 回 Gender
- 9 回 Sexuality
- 1 0 回 Ethnicity
- 1 1 回 Ethnicity
- 1 2 回 Invisible Minorities
- 1 3 回 Folklore and Fairy tales
- 1 4 回 Review
- 1 5 回 In Class Assessment

成績評価の方法 /Assessment Method

In class assessment 40% Presentations 30% Task based course work 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please come prepared every week by reading the material the instructor provides.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Japanese Culture and Society 【夜】

担当者名 /Instructor
ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year
2年次
単位 /Credits
2単位
学期 /Semester
2学期
授業形態 /Class Format
講義
クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○	○

G E P 又は G S P 履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ず K G P 履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

The objective of this course is to cover and discuss various aspects of Japanese society and culture from the past till present. Topics will include subjects ranging from traditional customs to pop culture and the influence of different religions. One specific goal will be to analyze the way Japan has been influenced by outside cultural influences throughout its long history. Another aspect of this course will be to see Japan from the perspective of non-Japanese students in order to help international students adapt to their new surroundings as well as encourage Japanese students to realize their own cultural identity.

教科書 /Textbooks

Ellington, Lucien. Japan: A Global Studies Handbook

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Printed materials to be supplied by instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Introduction and Orientation
- 2 回 Origins of Japanese Civilization
- 3 回 Japanese Religions I : Indigenous Beliefs
- 4 回 Japanese Religions II: Buddhism, Confucianism, and Christianity
- 5 回 Japanese Society I: Medieval Japan
- 6 回 Japanese Society II: Edo Period
- 7 回 Japanese Society III: Meiji till Present
- 8 回 Student Led Discussion & Presentations I
- 9 回 Student Led Discussion & Presentations II
- 1 0 回 Encounters with Japanese Culture: Food
- 1 1 回 Encounters with Japanese Culture: Media
- 1 2 回 Encounters with Japanese Culture: Education
- 1 3 回 Encounters with Japanese Culture: Family
- 1 4 回 Final Presentations I
- 1 5 回 Final Presentations II

成績評価の方法 /Assessment Method

Final Presentation and Paper -50%
Final Exam -50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to participate actively in discussion and make presentations on materials presented in this course. Students should read assigned materials before class.

履修上の注意 /Remarks

All coursework will be done in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Speaking Cultures and Societies 【夜】

担当者名 /Instructor ダニエル・ストラック / Daniel C. Strack / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○	○

G E P 又は G S P 履修対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ず K G P 履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

This course has two main goals: First, to identify similarities and differences between the UK, the US and other English-speaking cultures, and second, to consider various commonalities in world historical context with specific reference to the ways in which English-speaking societies have influenced global culture in the 21st century.

教科書 /Textbooks

No specific textbook. Printed copies will be distributed as necessary.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Specific reference works will be suggested in class.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 What is the Anglosphere? (複数の「英語圏」定義の比較、21世紀における英語及び英語圏の影響に関する検討)
- 第2回 Legends and Lore (古代ケルト文化圏、ストーンヘンジの謎、ベオウルフと古代英語、ローマ帝国時代、アーサー王伝説)
- 第3回 Continental Connections (イギリスとヨーロッパ大陸の関係史)
- 第4回 A Tale of Two Bridges (ロンドン橋と日本橋の架橋歴に見られる政治的異相)
- 第5回 Ladies and Gentlemen (イギリス人と階級)
- 第6回 Virtue and Vice (バブで語るファンタジー文学)
- 第7回 How to Make a Worldwide Empire (イギリス海軍と大英帝国に関して)
- 第8回 Gunboat Diplomacy (奴隷制度の普及と廃止、帝国主義の後退)
- 第9回 Squatters and Jumbucks (イギリス植民地における土地所有制度及び地元原住民の苦境)
- 第10回 I Hear America Singing (アメリカン・ポップ・ミュージックの源泉)
- 第11回 Border Stories (スコットランド文化を中心に)
- 第12回 Self-determination (憲法制と個人主義拡大への軌道)
- 第13回 Law of the Jungle (英語の多様化、英語における標準語概念の崩壊)
- 第14回 So Many Englishes (英語及び英語圏の諸文化に対する歴史的全体貌の再確認)
- 第15回 Review and Course Wrap-up

成績評価の方法 /Assessment Method

Class participation : 30% Assignments : 30% Presentations : 30% Attitude : 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Preview: Be aware of English speaking cultures and societies in the news so we can have an informed discussion of current events in class.

Review: Please be sure to check how weekly course information will relate to your final book review project.

履修上の注意 /Remarks

When planning for presentations and writing reports, please use English language materials only.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English language, Anglosphere, Imperialism, Globalization

国際政治経済概論 【夜】

担当者名 /Instructor デビッド・ アダム・ ストット / David Adam Stott / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○	○

G E P 又は G S P 履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ず K G P 履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

International Political Economy (IPE) combines many academic subjects, especially political science, economics, history, sociology and cultural studies. The purpose of this course is to introduce the main concepts of IPE, and introduce some case studies. Course delivery will include seminars, videos and student projects

教科書 /Textbooks

The instructor will provide the materials each week, including videos and printouts.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students should bring their dictionary to every lesson.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 What is International Political Economy?
- 3 回 The Theoretical Approaches - Realism, Liberalism, Marxism & Constructivism
- 4 回 International organizations - IMF and World Bank
- 5 回 Case study: the EU Dream
- 6 回 Case study: joining the EU
- 7 回 Case study: natural resources in Africa
- 8 回 Case study: the legacy of Empire in Nigeria
- 9 回 Case study: international business - reshoring or offshoring?
- 1 0 回 Case study: natural resources in Indonesia
- 1 1 回 Case study: Mekong River dams in Laos, Cambodia and Vietnam
- 1 2 回 Case study: development and the environment in China
- 1 3 回 Case study: slums in the Philippines
- 1 4 回 Student presentations
- 1 5 回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work = 40%; Presentation = 30%; Final exam = 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review each class.

履修上の注意 /Remarks

This class is taught in English, and all materials are in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

If you have any questions, please don't hesitate to ask me.

キーワード /Keywords

英語 国際関係 政治学 国際政治経済

担当者名 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○	○

G E P 又は G S P 履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ず K G P 履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

This course will explore various aspects of East Asian international relations with a particular focus on Japanese foreign policy. Through the prism of Japanese foreign policy students will develop a better understanding of the dynamics of international relations in East Asia, as well as of U.S. policy towards the region. Also, students are expected to upgrade their command of the English language by reading English materials, and debating in English. In this seminar there is a substantial amount of reading, and emphasis is placed on active participation in class discussion.

教科書 /Textbooks

Text materials for use in class will be presented.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- Richard J. Samuels, Securing Japan: Tokyo's Grand Strategy and the Future of East Asia, Ithaca: Cornell University Press, 2007.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Course Introduction
2. Understanding Japan's Grand Strategy
3. Historical Context(1): Japan's Grand Strategies
4. Historical Context(2): Baking the Pacifist Loaf
5. Identity Politics and Japan's Foreign Policy
6. Japan, the United States, and China in the 21 Century: A Historian Perspective
7. History in a Box: UNESCO and the Framing of Japan's Meiji Era
8. Addressing Japan's Comfort Women' Issue From an Academic Standpoint
9. Balancing China and the Realist Road to War
10. Showa History, Rising Nationalism and Japanese Political Development
11. What is North Korea's Nuclear Strategy?
12. What is the Trans-Pacific Partnership?
13. The Japan Problem and the Okinawa Problem
14. Korea and the New Regional Paradigm
15. Chimerica in Decline? , Class Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Overall Participation 10%
Reading Summaries 30%
Presentation 30%
Leading Discussion 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

All students are required to hand in 'reading summary' (1/2~1 page) in every single class. In order to encourage students to actively participate in a knowledgeable way, I require that all readings be done before class. You will be expected to take notes on the readings, a reading summary of which you must submit to me electronically by 9 A.M. before each class.

履修上の注意 /Remarks

All students are urged to prepare the presentations and discuss it during class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

It is important to be able to discuss the readings and topics in depth, raise interesting questions, and engage with your fellow students. It is impossible to participate if you do not attend, although consideration will be made for excused absences. You are expected to actively contribute to the discussion.

キーワード /Keywords

Asian International Relations, Strategy, Region, Security, History, Foreign Policy, Identity Politics

Chinese Economy 【夜】

担当者名 白石 麻保 / 中国学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○	○

G E P 又は G S P 履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ず K G P 履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

This course aims to provide students the opportunity to obtain deep understanding for Chinese economy and developing economy.

教科書 /Textbooks

The materials for lecture will be distributed.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

To be announced

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Orientation
- 2回 Economic growth1: GDP, Growth rate, SNA
- 3回 Economic growth 2: Investment, productivity
- 4回 Investment and economic growth
- 5回 Incentive for production: primary industry and secondary industry
- 6回 Next step of economic reform: case of China
- 7回 Changing on industrial structure: nominal value and real value
- 8回 Financial system and its reform: case of China
- 9回 Financial intermediation and its healthiness 1: distortion, SOEs, PEs,
- 10回 Financial intermediation and its healthiness 2: alternatives
- 11回 Financial intermediation and its healthiness 3: case of China about shadow banking etc.
- 12回 Regulation by Government 1: distortion
- 13回 Regulation by Government 2: efficiency
- 14回 Review
- 15回 Summary

Schedule will be variable by possible situations.

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation and Homework 40%, Examination or Report 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Preparation: Students will be required to read literatures and articles concerning developing and emerging economies.

Review: Using the knowledge obtained from lecture, students have to consider that how mechanism and logic of Economics are realized in real economy.

履修上の注意 /Remarks

Students will be expected to have a basic level of knowledge for micro and macro economics, and keep the motivation to actively participate in schedule.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

グループ演習 (デイバート・ 討論) 【夜】

担当者名 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○	○

G E P 又は G S P 履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ず K G P 履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

グローバル人材には、国際共通語の地位を得ている英語を用いて自分の考えを言い表し、議論に参加し、相手を説得できることが求められます。そのためには、英語の論理構造や思考法に慣れ、それを踏まえて議論を行っていく力、非常に高いコミュニケーション力を培っていかねばなりません。とりわけ、デイバートは日本ではあまりなじみがありませんが、英語で議論する際にはごく普通に見られるメソッドであり、ビジネス商談などの場においてもこの思考法に通じていなければ商談を成功させることは難しいのではないかと思います。この授業では、基本的に英語でさまざまなビジネストピックについて議論し、英語の思考法を体得していただくことを目指します。

本年度も教材としてTEDTALKSを用います。TEDTALKSは、ご承知のように、多くの方々が様々なトピックについて熱心に積極的にプレゼンテーションをされたもので、手加減のないauthenticな英語が用いられているため教材としての価値が極めて高く、また皆さんにとっても興味深く良い刺激を受けられることと思います。原則として毎回1つのトピックを扱うこととし、事前準備に基づきディスカッション・デイバートを行なうこととします。このパターンで毎回進めますので、予定通り進めばテキストに掲載されているすべてのプレゼンに対してディスカッション・デイバートが行なえることとなりますが、実際には議論の進み方やトピックの性質に応じて時間をかけて進めることもありますので、この予定通りには進まない可能性もあります。いずれにせよ、皆さんと楽しく議論できることを楽しみにしています。

例年、この授業には留学生の方々の参加もなされています。本年度も充実した異文化体験を交えた授業ができることを目指していききたいと思います。一緒にがんばりましょう。

教科書 /Textbooks

「TEDTALKS Keynote 1」(CENGAGE Learning)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で必要に応じて紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 セミ・オリエンテーション
- 第02回 Unit 1に基づくデイバート・ディスカッション
- 第03回 Unit 2に基づくデイバート・ディスカッション
- 第04回 Unit 3に基づくデイバート・ディスカッション
- 第05回 Unit 4に基づくデイバート・ディスカッション
- 第06回 Unit 5に基づくデイバート・ディスカッション
- 第07回 Unit 6に基づくデイバート・ディスカッション
- 第08回 Unit 7に基づくデイバート・ディスカッション
- 第09回 Unit 8に基づくデイバート・ディスカッション
- 第10回 Unit 9に基づくデイバート・ディスカッション
- 第11回 Unit 10に基づくデイバート・ディスカッション
- 第12回 Unit 11に基づくデイバート・ディスカッション
- 第13回 Unit 12に基づくデイバート・ディスカッション
- 第14回 1学期の総まとめとディスカッション
- 第15回 発展学習・デイバート演習

※実際の授業においては、内容を深めるために、あるいはディスカッションが盛り上がったために、予定より時間をかけて進めることもありますので、この予定通りには進まない場合がありますことをご了承下さい。

成績評価の方法 /Assessment Method

演習科目ですから、出席は当然です。その上で授業への積極的参加の度合いに実技を加味して総合的に評価します。
積極的参加の度合い50% + 実技・プレゼンテーション50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストを基に下調べをして臨んで下さい。また、折に触れてプレゼンテーションやデイバートのための課題などを指示することがあります。また、復習もしっかり行なってください。

履修上の注意 /Remarks

言うまでもないことですが、授業に出席するだけで実力がつくわけではありません。平素から英語に触れる努力をすることが大切だと思います。また、毎時間、次週までに準備して欲しいことを確認しますので、予習も怠りないようお願いいたします。

グループ演習 (デイバート・ 討論) 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は、複眼的視野、クリティカルシンキングなど、これからGEPで学んでいくために重要なことについて皆さんに考え、気づいてもらうことを目指して設定されています。デイバートや議論がテーマではありますが、それだけにとらわれず、自由な雰囲気の中で積極的な発言を心がけていただければ、活気のあるゼミにできると思います。よろしくお願いします。

キーワード /Keywords

デイバート、ディスカッション、TEDTALKS

Global Business Seminar (中国) 【夜】

担当者名 王 効平 / Xiao-ping Wang / マネジメント研究科 専門職学位課程
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○	○

G E P又はG S P履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ずK G P履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

中国の経済体制の変革と対外開放に伴う市場システムの定着、外資系企業の対中進出の全体状況を把握したうえで、ユニークな在中外資系企業のケースを通して国際ビジネスの仕組みを学習していく。今まで学んできた経済・経営関係の知識や基礎的な分析技法をフルに生かしてもらい、中国語と英語を併用したセミナー（討論形式の授業）としていきたい。極力日本語を使わない努力をしよう。

教科書 /Textbooks

必要に応じて演習の最初に指定する。
適宜プリント資料を配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指定

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 メンバーの自己紹介
第2回 ゼミ進行ルールについての話しあい、グループ分け
第3～4回 中国の経済体制変革、企業制度の変化についてグループ発表、討議
第5～6回 対外開放施策と外資系企業の誘致についてグループ発表、討議
第7～8回 日系企業による対中投資の全体像についてグループ発表、討議
第9～10回 中国市場の特性（消費者の嗜好など）についてグループ発表、討議
第11～12回 事例研究I：フォックスコン
第13～14回 事例研究II：ダイキン工業
第15回 総括（成果発表）

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポートの提出実績50% 演習報告の努力度・出来栄50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必読資料を事前配布し、指示する

履修上の注意 /Remarks

レジメの事前作成・報告前の配布をすること
各回配布参考資料の予習・復習をしっかりとしておくこと

アジアの主要言語を使用した演習の存在意義を理解してもらい、各自事前に語学力をしっかりと磨いてほしい
可能なら在学中に海外留学をし、演習内容と関連づけて留学地での生体験を語ってもらいたい

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

もっと東アジアに関心を持とう！
毎回の演習で必ず発言しよう！

キーワード /Keywords

Global Business Seminar 【夜】

担当者名 /Instructor 奥山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○	○

G E P 又は G S P 履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ず K G P 履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

This seminar aims to provide opportunities to learn the current affairs of global business and economic trends through class discussions and student presentations utilizing the real-world examples. The seminar starts with the lecture and discussion about the framework for understanding global business practice and economic policies. Then, based on these foundations, a series of student presentations and discussions on the current topics will be performed to grasp the issues of the global economy.

教科書 /Textbooks

Paul Krugman (2013) End This Depression Now!. W W Norton & Co Inc (paperback edition)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- Arthur O'Sullivan and Steven M. Sheffrin, (1998) Economics: Principles and Tools. 2nd ed. Upper Saddle River, NJ: Prentice Hall.
- N. Gregory Mankiw, (2001) Principles of economics. 2nd ed. Fort Worth, TX: Harcourt College Publishers.
- Joseph E. Stiglitz and Carl E. Walsh, (2002) Economics. 3rd ed. New York, NY: W.W. Norton.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1st week: Introduction
2nd week: Principles of Economics and Business
3rd week: Microeconomics and Macroeconomics: Quiz #1
4th week: Textbook Section 1
5th week: Textbook Section 2
6th week: Textbook Sections 3
7th week: Textbook Section 4
8th week: Textbook Sections 5 and 6
9th week: Quiz #2
10th week: Textbook Section 7
11th week: Textbook Section 8
12th week: Textbook Sections 9 and 10
13th week: Textbook Section 11
14th week: Textbook Sections 12 and 13
15th week: Quiz #3

成績評価の方法 /Assessment Method

Contribution to class discussion20%
Presentations35%
Quizzes45%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Classes will be held once a week in the lecture-seminar format, which includes in-class discussion based on the assigned readings. In addition to attending class regularly, preparing conscientiously for classes, and taking an active part in class discussions, there will be a few in-class quizzes (open-note and closed-book).

履修上の注意 /Remarks

The completion (including simultaneous course taking) of BOTH “国際経済論 (英語) I” AND “国際経済論 (英語) II” (for 2015 年度以降入学者) OR the completion of “International Political Economy” (for 2014 年度以前入学者) is a prerequisite for this course.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Have some fun with the world economy!

キーワード /Keywords

International Economic Affairs; Business Climate; Economic Policy

企業研究 / 企業研究I 【夜】

担当者名 齋藤 貞之 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○	○

グローバル関連科目です。適用年度等はKGP履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

経営学は大きくは、二つの領域に分けられる。企業論とマネジメント論の二つである。マネジメント論は企業だけでなく非営利組織や自治体などすべての組織運営に通じる経営を取り扱うのに対し、企業研究はその名の通り、「企業」を中心とした経営論である。企業は現代社会に生きるわれわれに決定的な影響力をもつ。「企業研究」の講義の目的は、受講生の将来の生き方に決定的な影響力を与える現代企業の特徴を、理論面よりもむしろ、具体的、実践的な側面から理解することをとおして、企業行動を冷静に見きわめることのできるリーダー育成にある。講義には数名の地域の経営者をお招きして、トップマネジメントの意思決定を学び、受講生が経営の実践力を体得できる講義にしたい。かつ、受講生と楽しく議論できる講義にできることを願っている。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 三戸浩他『企業論』(有斐閣、2004年)
- ・ 中野他編『初めて学ぶ経営学：人物との対話』(ミネルヴァ書房、2007年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 講義概要の説明
- 第2回 企業とは何か：その伝統的理解を問う
- 第3回 企業と社会：社会的機関となった企業
- 第4回 事例研究：フォードとGM その1
- 第5回 事例研究；フォードとGM その2
- 第6回 事例研究：トヨタと日産 その1
- 第7回 事例研究；トヨタと日産 その2 ブルーレイ鑑賞
- 第8回 経営者が語る企業経営の実践学習：地元経営者をゲスト・スピーカーに招いて
- 第9回 企業がまともに経営される仕組み；コーポレート・ガバナンスを考える その1
- 第10回 企業がまともに経営される仕組み；コーポレート・ガバナンスを考える その2
- 第11回 経営者が語る企業経営の実践学習：地元経営者をゲスト・スピーカーに招いて
- 第12回 同族企業とは何か：その強みと弱み
- 第13回 同族企業の事例研究
- 第14回 輝く企業を考える：コンシャス・カンパニー
- 第15回 結び：企業のリーダーに求められる能力・資質とは

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験の成績60%、小テスト・議論への参加度40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから『日本経済新聞』をよみ、現在、どのような企業の問題が話題になっているかを勉強しておく、授業理解が非常に高まる。

履修上の注意 /Remarks

「経営学I」を受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学の講義は、その内容を暗記するのではほとんど役には立たない。授業を聞き、教員と語り議論する過程で、自らの思考力、判断力、構想力を身につけることが肝要と考えている。

キーワード /Keywords

利潤動機と奉仕動機、顧客創造、コーポレート・ガバナンス、同族企業、コンシャス・カンパニー

実践英語中級1・2(600～730)【夜】

担当者名 木原 寛子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○	○

G E P又はG S P履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ずK G P履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

ビジネス英語の基礎を学び実践的な英語を習得することを主眼にしながら、TOEICの演習も同時に進めていく。
クラス内ではスピーチやロールプレイなどのアクティビティを取り入れ、知識としての英語から実際の場で使える英語への転化を目標とする。

教科書 /Textbooks

はじめてのTOEIC LISTENING AND READING テスト 本番模試 改訂版
新形式問題対応 旺文社 2016年 ¥1,400
(注意) 上記テキストのうち1学期に第1回模試、2学期に第2回模試を使用

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 英語で自己紹介 英語の学習法の紹介
- 2回 数の練習 ①【基礎】 TOEIC演習
- 3回 数の練習 ②【応用】 TOEIC演習
- 4回 電話 ①【基本表現】 TOEIC演習
- 5回 電話 ②【練習】 TOEIC演習
- 6回 アポイントメント TOEIC演習
- 7回 来客、訪問 TOEIC演習
- 8回 仕事の指示 TOEIC演習
- 9回 オフィス機器の使用法 TOEIC演習
- 10回 クレーム①【基礎表現】 TOEIC演習
- 11回 クレーム②【練習】 TOEIC演習
- 12回 会社紹介 ①【プレゼンテーション】 TOEIC演習
- 13回 会社紹介 ②【プレゼンテーション】 TOEIC演習
- 14回 語彙テスト TOEIC演習
- 15回 復習 TOEIC演習

成績評価の方法 /Assessment Method

本学が規定するTOEICのスコアによる

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された予習、授業内容の復習、課題、口頭練習を行うこと
洋書購読、映像視聴など英語に触れる機会を作り自己研鑽に努めること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

TOEICの問題集をテキストとして用いますが、スクリプトの暗唱や語彙など細かく学習していきます。毎回、地道に学習できる学生さんの受講を希望します。TOEICのスコアアップも大切ですが、授業は受講者がインターンシップや卒業後の仕事の現場で英語が使えるための準備の場となることに主眼を置いています。

キーワード /Keywords

実践英語中級1・2(600～730)【夜】

担当者名 木原 寛子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○	○

G E P 又は G S P 履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ず K G P 履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

ビジネス英語の基礎を学び実践的な英語を習得することを主眼にしながら、TOEICの演習も同時に進めていく。
クラス内ではスピーチやロールプレイなどのアクティビティを取り入れ、知識としての英語から実際の場で使える英語への転化を目標とする。

教科書 /Textbooks

はじめてのTOEIC LISTENING AND READING テスト 本番模試 改訂版
新形式問題対応 旺文社 2016年 ¥1,400
(注意) 上記テキストのうち1学期に第1回模試、2学期に第2回模試を使用

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 英語で自己紹介 英語の学習法の紹介
- 2回 数の練習 ① 【基礎】 TOEIC演習
- 3回 数の練習 ② 【応用】 TOEIC演習
- 4回 電話 ① 【基本表現】 TOEIC演習
- 5回 電話 ② 【練習】 TOEIC演習
- 6回 アポイントメント TOEIC演習
- 7回 来客、訪問 TOEIC演習
- 8回 仕事の指示 TOEIC演習
- 9回 オフィス機器の使用法 TOEIC演習
- 10回 クレーム① 【基礎表現】 TOEIC演習
- 11回 クレーム② 【練習】 TOEIC演習
- 12回 会社紹介 ① 【プレゼンテーション】 TOEIC演習
- 13回 会社紹介 ② 【プレゼンテーション】 TOEIC演習
- 14回 語彙テスト TOEIC演習
- 15回 復習 TOEIC演習

成績評価の方法 /Assessment Method

本学が規定するTOEICのスコアによる

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された予習、授業内容の復習、課題、口頭練習を行うこと
洋書購読、映像視聴など英語に触れる機会を作り自己研鑽に努めること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

TOEICの問題集をテキストとして用いますが、スクリプトの暗唱や語彙など細かく学習していきます。毎回、地道に学習できる学生さんの受講を希望します。TOEICのスコアアップも大切ですが、授業は受講者がインターンシップや卒業後の仕事の現場で英語が使えるための準備の場となることに主眼を置いています。

キーワード /Keywords

実践英語中級1・2(600～730)【夜】

担当者名 足立 科子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○	○

G E P又はG S P履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ずK G P履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

新形式TOEICのスコアアップを図るとともに、実践で使える英語力を養うことをクラスの目的とします。授業は座学ではなく、学生の参加（発言）を中心とした形式です。グループワークやペアワークも多く取り入れます。TOEICについては、新形式に慣れること英語に対する反応を速くかつ正確に内容理解することに焦点を置きます。スピーキングについては、描写力、説明力をつけることから始めて、自分の意見を述べたり、受講生間で英語を使ったコミュニケーションが取れるようなレベルを目指します。テキストとして使用する問題集は通年で使用します。

教科書 /Textbooks

公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 1
出版社: 国際ビジネスコミュニケーション協会
ISBN-13: 978-4906033492

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、速読、ディクテーション、スピーキング
- 2回 リスニング(以下L): TOEIC新形式問題、短文(ニュースなど)聞き取り、スピーキング(以下S): 描写
- 3回 L:短文聞き取り、リーディング(以下R): TOEIC新形式問題、S: 描写②
- 4回 L:TOEIC新形式問題、短文聞き取り、R:結末を考える読み物①、S: 描写(まとめ)
- 5回 L:短文聞き取り、R:TOEIC新形式問題、S: 説明①
- 6回 L&R: TOEIC新形式問題、R:結末を考える読み物②、S: 説明②
- 7回 L: 長文リスニング、R:TOEIC新形式問題、S: 説明(まとめ)
- 8回 L&R: TOEIC新形式問題、R:結末を考える読み物③、S: 意見を述べる①
- 9回 L&R: TOEIC新形式問題、S: 意見を述べる②
- 10回 L&R: TOEIC新形式問題、S: 意見を述べる(まとめ)
- 11回 実践演習: 受講生の関心事、時事的な事柄などをトピックとした総合的な演習。娯楽的要素も取り入れる。
- 12回 実践演習
- 13回 実践演習
- 14回 フォローアップ: 授業の進捗により内容を調整する
- 15回 フォローアップ

成績評価の方法 /Assessment Method

なし

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

クラス内で連絡します。宿題は基本的に任意形式(講師による添削)とします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

実践英語中級1・2(600～730)【夜】

担当者名 足立 科子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○	○

G E P又はG S P履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ずK G P履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

新形式TOEICのスコアアップを図るとともに、実践で使える英語力を養うことをクラスの目的とします。授業は座学ではなく、学生の参加（発言）を中心とした形式です。グループワークやペアワークも多く取り入れます。TOEICについては、新形式に慣れること英語に対する反応を速くかつ正確に内容理解することに焦点を置きます。スピーキングについては、描写力、説明力をつけるところから始めて、自分の意見を述べたり、受講生間で英語を使ったコミュニケーションが取れるようなレベルを目指します。テキストとして使用する問題集は通年で使用します。

教科書 /Textbooks

公式 TOEIC Listening & Reading 問題集 1
出版社: 国際ビジネスコミュニケーション協会
ISBN-13: 978-4906033492

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、速読、ディクテーション、スピーキング
- 2回 リスニング(以下L): TOEIC新形式問題、短文(ニュースなど)聞き取り、スピーキング(以下S): 描写
- 3回 L:短文聞き取り、リーディング(以下R): TOEIC新形式問題、S: 描写②
- 4回 L:TOEIC新形式問題、短文聞き取り、R:結末を考える読み物①、S: 描写(まとめ)
- 5回 L:短文聞き取り、R:TOEIC新形式問題、S: 説明①
- 6回 L&R: TOEIC新形式問題、R:結末を考える読み物②、S: 説明②
- 7回 L: 長文リスニング、R:TOEIC新形式問題、S: 説明(まとめ)
- 8回 L&R: TOEIC新形式問題、R:結末を考える読み物③、S: 意見を述べる①
- 9回 L&R: TOEIC新形式問題、S: 意見を述べる②
- 10回 L&R: TOEIC新形式問題、S: 意見を述べる(まとめ)
- 11回 実践演習: 受講生の関心事、時事的な事柄などをトピックとした総合的な演習。娯楽的要素も取り入れる。
- 12回 実践演習
- 13回 実践演習
- 14回 フォローアップ: 授業の進捗により内容を調整する
- 15回 フォローアップ

成績評価の方法 /Assessment Method

なし

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

クラス内で連絡します。宿題は基本的に任意形式(講師による添削)とします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

実践英語上級1(730～800)【夜】

担当者名 松田 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○	○

G E P 又は G S P 履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ず K G P 履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

- TOEIC対策：
スコアアップのための戦略および具体的な訓練法を身につける。特にリスニング対応として、リプロダクション、シャドウイング、訳出を中心に訓練を行う。
加えて、新TOEICにも対応する。
- スピーキング力向上：
社会事象をテーマに意見を持ち、大学生レベルの英語で伝えることができることを目指す。
TED Talksなども活用して、スピーチ、ディスカッション、ディベート、通訳などを実践する。
このパートは基本的に英語のみで進める。

教科書 /Textbooks

Tactics for TOEIC Listening and Reading Test (OXFORD)
新TOEIC 対応のプリント (必要に応じて配布)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- オリエンテーション (シラバス説明、目標の明確化) 自己紹介スピーチ
2回以降
 - ・ IELTS Part1スタイルのQ&Aセッション
 - ・ TOEICテキスト (リプロダクション、シャドウイング、訳出など導入)
 - ・ スピーキングセッション (事前与えられたテーマについて、スピーチ、ディスカッション、ディベート、通訳など)
自分のスピーキングを必要に応じて録音する。

成績評価の方法 /Assessment Method

評価付けはない。
学期終了前後にTOEICを受験すること。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前： テキスト予習。 スピーキングセッションの準備として、テーマについてのリサーチ。

履修上の注意 /Remarks

TOEICスコアアップに特化した授業ではない。
パフォーマンスを通じた実践力養成にも重点を置いていることを理解した上で履修することを望む。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スピーキング力向上を目指しますが、テーマについて自分の意見を持つことが第一。
社会事象について関心を持ち、考えてみましょう。

クラス内では失敗を恐れず、思いっきり、心ゆくまで発話してください！

英語通訳者として、仕事として英語を実践していく実情についても触れていきたいと思います。

キーワード /Keywords

実践英語上級1(730～800)【夜】

担当者名 松田 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
							○	○	○	○	○	○

G E P 又は G S P 履修生対象のシラバスです。なお、入学年度やプログラムにより、科目名称や配当年次等が異なる場合があります。必ず K G P 履修の手引きで確認してください。

授業の概要 /Course Description

- TOEIC対策：
スコアアップのための戦略および具体的な訓練法を身につける。特にリスニング対応として、リプロダクション、シャドウイング、訳出を中心に訓練を行う。
加えて、新TOEICにも対応する。
- スピーキング力向上：
社会事象をテーマに意見を持ち、大学生レベルの英語で伝えることができることを目指す。
TED Talksなども活用して、スピーチ、ディスカッション、ディベート、通訳などを実践する。
このパートは基本的に英語のみで進める。

教科書 /Textbooks

Tactics for TOEIC Listening and Reading Test (OXFORD)
新TOEIC 対応のプリント (必要に応じて配布)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- オリエンテーション (シラバス説明、目標の明確化) 自己紹介スピーチ
2回以降
 - ・ IELTS Part1スタイルのQ&Aセッション
 - ・ TOEICテキスト (リプロダクション、シャドウイング、訳出など導入)
 - ・ スピーキングセッション (事前与えられたテーマについて、スピーチ、ディスカッション、ディベート、通訳など)
自分のスピーキングを必要に応じて録音する。

成績評価の方法 /Assessment Method

評価付けはない。
学期終了前後にTOEICを受験すること。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前： テキスト予習。 スピーキングセッションの準備として、テーマについてのリサーチ。

履修上の注意 /Remarks

TOEICスコアアップに特化した授業ではない。
パフォーマンスを通じた実践力養成にも重点を置いていることを理解した上で履修することを望む。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スピーキング力向上を目指しますが、テーマについて自分の意見を持つことが第一。
社会事象について関心を持ち、考えてみましょう。

クラス内では失敗を恐れず、思いっきり、心ゆくまで発話してください！

英語通訳者として、仕事として英語を実践していく実情についても触れていきたいと思います。

キーワード /Keywords